

先ほど三重県内の交通事故の状況について発表していただきましたけれども、27年度中、子ども、いわゆる中学生以下の交通人身事故が県内で実は215件発生しております。そのうち自転車の乗車中が146件と、全体の60%を占めています。このような状況から、児童・生徒に自転車の正しい乗り方や、あるいは危険予測とか、危険を回避する力を身につけてもらうための実践的な交通教育が今後の課題となっております。

このたび三重県では、向こう5年間の三重県の交通安全に関する施策の大綱を定めた、三重県交通安全計画を策定しました。この中でも、子どもの安全を確保する観点から、通学路における歩道等の歩行空間の整備を積極的に推進するということが書き込まれておりますので、私ども委員会としても、このことが着実に実施されますよう注視してまいりたいと思っております。

津東高校の生徒会の皆さんがこれから取り組もうとしておられる、交通マナーの意識を向上させるための取組については、交通事故の危険性を減らすために非常に効果のあるものだと思っております。ぜひ積極的に進めていただいて、校内だけにとどまらず、地域の方々にもそういった交通安全思想を広げていただければというふうに思っています。

委員会といたしましても、通学路における危険箇所の安全対策、あるいは交通マナーに対する意識の啓発などが進められるよう、しっかり議論してまいりたいと思っております。

○津東高等学校

答弁ありがとうございます。

本校では、昔に登下校中に事故に巻き込まれ亡くなられた方がいます。本校でも、ほかの学校などでも、もうこんな悲しい事故は起こって欲しくありません。ですので、先ほど答弁にあったような対策を可能な限り早くとっていただきたいと思えます。

以上で質問を終わります。（拍手）

○議長（草川史織）

それでは、議長の交代のため、着席のまま、暫時休憩いたします。（拍手）

〔草川史織議員移動、
稲葉雅紀議員議長席に着く〕

○議長（稲葉雅紀）

高田高校2年、稲葉雅紀です。本日最後の議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）



休憩前に引き続き会議を開きます。
県政に対する質問を継続いたします。
木本高等学校、40番 大江綾夏議員、
41番 川口真央議員。



○木本高等学校（大江綾夏、川口真央）

私たち木本高校は、東紀州の活性化について質問します。

三重県の多くの地域で高齢化が進んでおり、私たちが住む熊野市でも高齢化の問題は深刻です。しかし、健康で長生きをするのはすばらしいことであり、むしろ少子化、若年層の減少が大きな問題であると考えます。

先日、木本高校の2年生を対象とした三重大学の講師の先生の講義で、「大人になったとき、熊野に戻ってきて住み続

けたいと思うか」についてのアンケートの結果の報告がなされました。その結果、大多数の生徒が「戻らない」という趣旨の回答をしました。「戻りたい」と答えた生徒の中にも幾つかの不安な点があるという声がありました。

「戻らない」「戻りたい」、そのどちらにも共通している点こそが、熊野市の少子化、若年層の減少の原因の一つではないかと考えます。それは、【パネルⅠ】このアンケート結果からも明らかのように、働く場所が少ないということです。ほかの地域で様々な知識や資格を身につけても、戻ってきてそれを発揮する場所がないということで帰郷を諦めたり、帰郷してもまた都市部へ出ていってしまうという例はたくさんあります。この問題を解決するにはどうすればよいか、次のように考えました。

まず、1つ目は、社員寮や社員の住宅がついた大きな会社を誘致することです。必然的に人は増えますが、企業誘致には乗り越えるべき様々な問題があるように思います。

2つ目は、東紀州地域での起業の促進です。今の時代は、ITの発達で、どこでも、どんな分野でも会社や団体を運営することが可能になり、その思いを持っている若者は、地元出身・他地域出身にかかわらずいるのではないかと思います。その気持ちを後押しできるような県からの支援や資金援助の政策を実施してはいただけないでしょうか。あればよいなと考えます。財政面での問題は、東紀州地域だけでは乗り越えることが難しい問題です。

次に考えたのは、若者の定住を目指すべく、子育て支援を充実させることです。この地域から他地域に移住してしまう理由の一つに、医療環境と教育環境が充実していないことが挙げられています。医療と教育の充実は、安心・安全で幸せな生活を送る上で大切なポイントです。へき地に赴く医師の確保、子どもの数にのみこだわることのない教育環境の充実にぜひ着手してください。

最後に、文化施設の充実です。東紀州地域にも多くの人を楽しめる県の文化施設をつくっていただきたいです。一時的ではありますが、まちが活気づきます。文化施設を目指して移住する人々や、文化施設を利用して自分の芸術世界を発信したいと思う芸術家たちの移住も夢ではないと思います。

議員の皆さまは、東紀州地域の活性化についてどのようにお考えですか。

○総務地域連携常任委員長（大久保孝栄）

木本高校の川口議員、そして大江議員のほうから東紀州の活性化についてのご質問をいただきました。



私も東紀州の出身でございますので、全く同じ思いでございます。そして、今言っていたいたのは、まさに私がいつも言っていることと同じ内容なので、思い切り力を込めて答弁をさせていただきたいと思います。

私たちが生まれ育った地域に、東紀州に住み続けるためにはどうすればいいのか、様々なご提案を先ほどいただきました。ありがとうございます。

生まれ育った地域に住み続けるためには、進学や就職のタイミングで地元を後にして、他所に行ってしまう方々が将来戻ってくる取組が必要ということで、私もさっきのアンケート結果にはちょっとショックでしたが、やはり戻ってきてほしいという思いでいっぱいです。

県では、若者のU・Iターンにつなげるため、南部地域で生き生きと充実した生活を送る若者のライフスタイルを発信するなど、いろんな取組をしています。また、地域の魅力を発見して、愛郷心、

自分のふるさとが大事だと思う心を育む取組とか、大学との連携による高校生の地域課題の解決の講座などへの支援を行っているところです。

私たちの委員会でも、今年重点調査項目で、移住の促進や南部地域の活性化を掲げているところです。今後、さっき言っていただいたように、企業の誘致などもしていきたいなと思っているところですが、例えば働く場所を確保するための企業誘致について、県では地域資源などを活用した南部地域への誘致に取り組んでおり、企業投資を促進する制度もあるんですね。同時に、さっき言っていただいた起業するということも大事なことでと思います。都会に出て、力をつけて帰ってきて、それを発揮する場がないと先ほどおっしゃっていましたが、その発揮する場を自分たちでつくっていく、そういう力強さも大事だと思いますし、そういうことを私たちが支援していかなければならないなと感じるところでもあります。その辺では、商工会議所とか基礎自治体も一緒になって、環境をつくっていくことが大事だなと感じているところです。

また、先ほど言っていただいた若者の定住のための子育て支援、それから医療サービスというのは絶対欠かせないことです。どの地域でも一定の医療サービスを受けることができるような環境整備、それから、将来の子どもたちが三重県で学びたいと思えるような、東紀州で学びたいと思えるような県内の高等教育機関の充実、それから魅力向上が必要です。それは東紀州だけではなくて、三重県全体で考えなくてはならない問題であります。県として、しっかりと取り組むように私たちも要望を続けていきたいと考えているところです。

それから、最後に言っていただきました文化施設のことですけれども、文化施設ことは、今の県の財政状況では大変厳しいところでもありますけれども、各県立文化施設を活用して三重県全体の魅力を広く発信していくことで、東紀州の活

力や移住・交流促進につなげることができればと思っています。

ご存じのように、尾鷲には熊野古道センターがあります。熊野古道センターは、熊野古道の歴史や自然、文化についての情報発信などを世界に行っています。こうした施設についても、いろんなイベントとあわせてコンサート等を行うことで、文化活動を通じた地域の交流促進につながるものと考えています。

私たちは東紀州地域をもっと活性化していきたいと同じように思っています。そのためにも、今日、素晴らしい提案をいただきましたが、そういう高校生の皆さんの力が本当に必要な時代に来ていると思っています。

県としても、引き続き東紀州地域の活性化に向けた様々な取組を進めていきますけれども、ぜひ皆さんも、東紀州地域の素晴らしい自然とか、おいしい食べ物とか、スピリチュアルな魅力をぜひ発見して、広く情報発信をしていただきたいと思います。そして、地域の活性化と一緒に携わってほしいと思います。これからも、ともに力を合わせて東紀州のために頑張りましょう。

○木本高等学校

ご答弁ありがとうございました。

まず最初に、力強い共感の言葉、とてもうれしく思います。我々木本高校は、ユネスコスクールとして認められているので、その強みを生かして、周りにある世界遺産を利用して、外国人の観光客や県外から訪れる人のために、何かイベントや行事、活動を行っていききたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○議長（稲葉雅紀）

セントヨゼフ女子学園高等学校、42番 草川史織議員、43番 江藤里桜議員、44番 西川天海議員、45番 永倉菜々美議員。



○セントヨゼフ女子学園高等学校（草川史織、江藤里桜、西川天海、永倉菜々美）

私たちセントヨゼフ女子学園高等学校からは、三重県における待機児童問題の現状についてお尋ねしたいと思います。

国が推し進めている「一億総活躍社会」の実現には、人口の半分を占める女性の活躍が必要不可欠だと思います。また、夫婦共働きの割合の増加など、働き方の変化に対応しなければならない現状を政策に反映しなければならないと思います。しかし、現実には、女性の社会参画は諸外国と比べて低いのが現状です。し、時代の変化に政策が追いついていない、後追いのようにも思えます。

三重県においては、三重県総合文化センター内に三重県男女共同参画センターがあり、様々な取組が行われていることを調べました。例えば、女性の管理職の割合は、三重県庁7.8%、県内市町役所平均17.6%。女性議員の割合は、県議会11.8%、県内市町議会平均13.3%です。この割合だけで判断することは正しいとは思いませんが、「参画」と「参加」の違いを理解し、「参画」する私たちでなければならないと思います。

私たちセントヨゼフ女子学園は、来年度から県内唯一の女子校となります。女子校ならではの学校行事など、共学では学べないことがたくさんあり、自立した女性として社会に貢献できるように現在学んでいます。女性の社会参画を阻む問題が数多くあるようです。その一つが待機児童の問題です。国会の議論の中で様々な取組が検討され始めているようです。

この場に今いらっしゃらないのが残念ですが、「イクメン知事」として率先し

て行動され、情報を発信しておられる鈴木英敬知事は、まさしくこの問題を解決しなければならない大切な問題だと捉えていらっしゃると思っています。

そこで質問ですが、現在の三重県内待機児童数、また、待機児童ゼロにするための方策をお答えください。

私たちは、例えば県庁内保育所、ショッピングセンター内保育所、駅ビル内保育所、駅前シャッター通りの空き店舗の有効活用などを想定しています。また、以前からの懸案である幼保一元化がなかなか進展しない現状を改善していくためには、国に対しての特区申請が必要になるのかもわかりませんが、三重県独自の施策、三重県が先進県と誇れる政策をお願いします。

○健康福祉病院常任委員長（小島智子）

セントヨゼフ女子学園高等学校の皆さんから三重県における待機児童問題の現状についてご質問をいただきました。

女性参画についてというのも前段のところであったように思いますけれども、女性参画の課題については、まだまだ様々、男女共同参画意識の問題であったりということはあるかと思いますが、今回は待機児童の問題に絞ってのお尋ねでありましたので、そのことについてご答弁を申し上げたいと思います。

今年2月、ある1人のお母さんが書いたブログが大変話題になりましたが、ご存じでしょうか。このことで待機児童問題が社会的に大きく取り上げられることとなりました。「保育園落ちた、日本死ね!!!」という題で、言葉遣い等については様々な物議を醸し出したわけですが、内容は皆さんも目にしたことがおありかもしれません。保育所への入所申し込みをしていたけれども、希望者が多くて預けることができず、仕事に復帰できない。自分の希望と現実が乖離している。それなのに、世の中は女性に出産、育児、社会での活躍を期待する。じゃあ、私は一体どうしたらいいのよ、そんな怒りや嘆きのようなものが込められたプロ

グだったと思います。

「保育園落ちた」は都会だけの話ではなくて、残念ながら三重県にも存在します。平成27年4月1日現在では、待機児童は98人、それが同年10月1日では412人に膨れ上がっています。それより1年前の数字と比較しても、平成26年4月1日が48人、10月1日が362人でしたので、1年変わると約50人ほど年度当初でも増えているということがわかります。年度途中での職場復帰をされたいという希望のある方、それから、私は桑名に住んでおりますので分かるのですが、例えば名古屋のほうから引っ越してみえて、その方たちが仕事をしたいので預けたいんだけど、預けられないというようなこともあるかと思いますが。

三重県では待機児童解消に向けて、定員を増やすための施設整備、平成27年度は7園、それから、待機児童となりやすい0歳から2歳児を対象とした家庭内保育、事業所内保育など、地域型保育事業と言われるものの創設については、平成27年度に14カ所進めさせていただきましたけれども、これをさらに進めるように市や町に働きかけています。

また、年度途中で保育需要が増える0歳、1歳児を受け入れできるよう、年度初めから保育士を多く配置しようとする私立の保育所を支援する市や町に対して補助金を出しています。ほかにも、保育士さんの人材確保として、保育士さんについては、給与が低い等、大変大きな問題があるわけですが、保育士の資格を持っている方への就職相談、それから現場復帰支援研修、残念ながら途中でお辞めになってしまう方々がとても多いので、こういう研修を。そして、保育士の資格取得を目指す学生さんへの保育士修学資金貸付なども実施をしているところです。

このように、三重県では、平成31年度に待機児童をゼロとする目標を立てて重点的に取り組みまして、受け入れる人数枠を拡大するように取り組んでいるところです。しかし、それ以上に保育を必要

とする、そういう方が増えているのが現状です。

当委員会としても、これからの皆さんに、希望する職業に就いて働きたい、社会で活躍したいと思う気持ちを持ち続け、安心して働き続けていただけるように、三重県が行う待機児童解消に向けた取組についてしっかり調査をし、当局に向けて意見を申し述べていきたいというふうに思っています。

「参加」と「参画」は違うとご質問の中でもありました。しっかり女性としても社会参画をしていく、そのためにどうやって環境整備を進めるかということ、県の大切な役割だというふうに認識をしておりますので、県政に対して様々なご意見をいただければと思っています。ありがとうございました。

○セントヨゼフ女子学園高等学校

再質問させていただきます。

今挙げられた方策の中で優先的に実行なさろうとしているのはどれですか。また、その理由も教えてください。そして、その方策の中に三重県らしさはどのように含まれているかを教えてください。

○健康福祉病院常任委員長



特別に、このことだけを特化して、これをまず優先的に進めようとしているものというのは、今すぐお答えはしかねます。

ただ、いろんな切り口で、いろんな方面からすぐに効果が出るものもあれば、時間がかかるものもあると思っていますので、いろんなことをやってみないと効

果がどう出るかわかりませんから、当局にもいろんな意見を言いながら進めていきたいと思っています。

ただ、今回は高校生県議会ですが、これから皆さんが、男性の方も女性の方もみえますが、ともに働いてやっていこうとするときに何が障壁になるのかということを、実際に働かれた中でも私どもにもぜひお伝えをいただきたいし、県民の声としてもお聞かせいただきたいと思っています。

○セントヨゼフ女子学園高等学校

答弁ありがとうございます。

10年後、20年後の三重県、安心して自分の力を発揮できる三重県づくりに参画していこうと、このみえ高校生県議会に参加して思いを強くしました。

これで質問を終わります。（拍手）

○議長（稲葉雅紀）

名張西高等学校、46番 中森光基議員、47番 伊東真由議員、48番 松山清美議員、49番 山下まみ議員。



○名張西高等学校（中森光基、伊東真由、松山清美、山下まみ）

こんにちは。名張西高校からは、伊賀地区の観光基盤や、道路、鉄道の利便性について質問させていただきます。

伊賀地域の代表的な観光資源、忍者を例にとって考えてみます。平成28年3月に発表された「三重県観光振興基本計画」には、忍者が、「外国人が注目する本県が世界に誇るクールジャパン資源」と書かれています。忍者というと、三重県民の多くは伊賀忍者や忍者屋敷のことを想像したと思いますが、その人たちも

どのくらい伊賀忍者のことをご存じなのでしょう。私たちの学校がある名張市にも忍者がいたことや、名張赤目四十八滝に忍者の森という忍術体験施設があることを知っている人は少ないように感じます。

また最近、忍者がモデルとなったテレビコマーシャルが放映されています。しかし、その忍者のモデルは三重の伊賀忍者ではなく、隣の滋賀の甲賀流忍者でした。それを知ったときはなぜか悔しく、残念な思いをしました。なぜ伊賀ではなく甲賀なのか、その理由をみんなで考えたところ、あることに気がつきました。それが交通の便です。

資料をご覧ください。【パネルJ-1】

資料にもあるように、甲賀の忍者屋敷は新名神高速道路の甲南インターチェンジからたった3分で到着することがわかります。新名神が開通して以降、交通手段が飛躍的に便利になったことがわかります。近隣に同じように忍者をアピールする土地がある中では、交通が整備され、時間短縮ができるようになった甲賀に注目が集まってしまうのは仕方ないことかもしれません。

それでは、伊賀地区についてはどうでしょうか。伊賀地区を訪れる観光客の75.3%が車を使用して観光するという報告があります。しかし、伊賀市と名張市の道路は決して整っているとは言えません。伊賀市には名阪国道の25号線こそ通っていますが、ほかの道路は狭いです。さらに不便なのは名張市で、高速道路や自動車専用道がなく、主要道路としては国道165号線しかありません。朝の通勤・通学時間には非常に混雑し、事故などが起こると深刻な渋滞が発生します。渋滞に巻き込まれ、学校を遅刻した経験を持つ友達も多いです。また、伊賀市と名張市をつなぐ国道368号線も同様の状況にあります。いつも混雑している場所に観光客は訪れるのでしょうか。

それでは、電車での観光はどうでしょうか。【パネルJ-2】鉄道を使って観

光する場合、伊賀の忍者屋敷に行くには伊賀鉄道という電車を使わなければなりません。私も毎日の通学でこの伊賀鉄道を使っている生徒の1人ですが、時間によっては乗り換えのため駅で待つなど、乗り合わせの悪い鉄道です。時間が限られた観光客にとって、この時間のロスは伊賀地区から足を遠ざけてしまう要因になると私たちは考えました。

前述の「三重県観光振興基本計画」の施策の一つに、「利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり」があり、その中でも「観光振興に資する交通基盤等の構築」「広域的な鉄道路線の利便性向上等に向けた取組」が挙げられています。私たちの住む伊賀地区の観光資源を生かすためにも、そして、地元住民がより快適に生活するためにも、この取組を進めていただければと感じています。

忍者を本県が誇るクールジャパンとして認識いただけることをうれしく思いますが、そのためにも、伊賀地区の観光基盤として道路、鉄道の利便性を具体的にどのように向上させていただけるのでしょうか。現在の取組状況と今後の進め方をお教えてください。よろしく申し上げます。

○防災県土整備企業常任委員長（下野幸助）

ただいま名張西高等学校の中森議員、伊東議員、松山議員、山下議員からご質問がございました、伊賀地区の観光のための交通基盤や、道路・鉄道の利便性向上についての現状の取組と今後の進め方について答弁をいたします。



さて、伊賀地域の道路整備や伊賀鉄道

については、これまでも県議会でたびたび議論がなされているところであり、重要な課題と認識をしております。

道路と鉄道に分けて答弁をさせていただきたいと思います。

まず、道路整備についてですが、国道368号線は名阪国道上野インターから名張市蔵持町原出^{くらもちちょうはらで}の国道165号までの約14kmの区間で4車線化の整備を進めているところです。その整備に当たっては、主要な交差点区間に区切り、先行して4車線の供用を開始したり、左折車両の多い箇所では左折レーンの設置工事を行うなど、交通の混雑状況を踏まえ、渋滞を緩和する効果の高い箇所から先行して進めているところです。

しかし、国道165号と観光地の赤目四十八滝を結ぶ県道赤目滝線のように、バイパス計画はあっても、用地買収に時間がかかっているようなところもございます。

また、滋賀県東近江市の名神高速道路から新名神高速道路を経由し、伊賀市の名阪国道までの約30kmを結ぶ名神名阪連絡道路は、地元から早期事業化についての要望を受けており、県としても、国に対して要望をしているところでもあります。

次に、鉄道についてですが、近鉄の伊賀神戸駅とJRの伊賀上野駅を結ぶ伊賀鉄道の利用者は、通学定期の利用者が半分以上を占め、通勤定期利用者と合わせると7割以上と聞いていますが、今の人口減少社会では、地元の方の利用を促すだけでなく、観光客による利用増加も期待されているところです。

伊賀鉄道の経営は、近鉄と伊賀市が出資してつくった伊賀鉄道株式会社が行っており、平成29年度からは、伊賀市が近鉄から施設や車両などを譲り受け、伊賀鉄道株式会社が運営する方式で存続することが決まっています。マスコミにもよく取り上げられている忍者列車など、観光面でのポテンシャルは決して低くなく、新たな体制でのより一層の経営努力に期待したいところです。

県といたしましては、安全な輸送を継

続するために必要な設備整備に対して補助金を交付するなど、支援をしていくこととしています。

交通アクセスが便利になることで観光客が増える場合もあれば、観光客が増えることで交通需要が生まれ、利便性が高まる場合もあり、交通と観光は相互に影響を及ぼすものであります。

住んでいる人にとっても訪れる人にとっても、よりよい交通基盤が整えられるよう、委員会でも今後しっかりと検討していきたいと思っております。

○名張西高等学校

ご丁寧な回答ありがとうございました。

私たちの知らないところで様々な取組がなされていることが分かり、安心しました。交通網の整備については、これからも一層の取組をよろしくお願いします。

ご回答いただいた内容を踏まえ、もう一つ質問させていただきます。

「三重県観光振興基本計画」には、伊勢志摩サミットで伊賀の忍者や名張の赤目四十八滝のPRをテレビ、雑誌、新聞などを活用して行っていくとの記述がありました。サミット中、具体的にはどのようなPRがなされたのでしょうか。また、サミットが終わった今、どのようにPRしていただけるのでしょうか。よろしくお願いします。

○戦略企画雇用経済常任委員長（石田成生）



伊賀忍者や赤目四十八滝は、サミット中にどのようにPRがなされ、また、サミット終了後、どのようにPRをされていくのかというお尋ねにお答えをいたし

ます。

伊勢志摩サミットでは、海外のメディアが三重県取材するツアーが計22回実施され、36カ国の記者が三重県各地を訪れました。

伊賀流忍者博物館の取材の様子は、中国の新聞「人民日報」や、韓国、ロシアのテレビ等でも取り上げられました。

加えて、ジュニア・サミットの体験・交流行事先として選ばれた赤目四十八滝も、忍者修行の里として各メディアによって報じられました。

また、国際メディアセンターにおいては忍者ショーが実演され、各国メディアの好評を得ました。

伊賀地区は忍者発祥の地域です。これからは国内外から人を呼び込むための切り札として、発信力強化を図っていきたいと考えております。

○名張西高等学校

答弁ありがとうございました。

以上で質問を終わりたいと思います。
(拍手)

○議長（稲葉雅紀）

三重高等学校、50番 松林臣議員、51番 須崎僚斗議員、52番 北村龍之介議員。



○三重高等学校（松林臣、須崎僚斗、北村龍之介）

私たち三重高等学校は、交流人口の増加による地域活性化について質問、提案したいと思います。

私たちは、地域活性化を目指すために何をすべきかと考えたときに、交流人口を増やすための補助金をつくるべきだと

考えました。

地域活性化をするために何が必要かと考えたとき、まず、人口を増やす必要があると考えました。例えば、松阪市では明和町、大台町、多気町と市町間での人々の定住を実現するために、平成27年3月27日に定住自立圏形成協定が結ばれ、医療、福祉、産業振興などの充実を図っています。このような協定を県と海外の都市とで行い、海外の都市からの定住化を図るべきであると考えます。しかし、いきなり定住化というのは難しいです。まずは、ショートステイなどを通して、三重県のことを知っている海外の人々を増やすべきであると考えます。そうすることで、世界に三重県の存在や情報が広まり、三重県を知っている海外の人々を増やし、観光客が増加し、活性化が進むのではないかと考えたからです。ただ、むやみに海外の都市から観光客を増やすよりも、関係性のある現在の三重県や各市町村の姉妹都市から交流人口を増やしていくのです。

現在、県内の外国人宿泊者数は、平成28年度3月改訂版「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」によると17万8,520人。目標は45万人。大きな差があり、数年で達成できる目標ではありません。この目標に近づくきっかけとしても、交流人口の増加を促進させることは有効ではないでしょうか。

姉妹都市から来た海外の方にショートステイの機会を与え、三重県の文化や伝統などを体験していただく。自ら経験したことは一生の思い出になります。そして、また三重県に來たいと考え、自国で三重県の情報や魅力を語ってもらえる可能性が増えるのではないのでしょうか。

そこで、来てもらう姉妹都市の人々を増やす手段の一つとして、我々は「姉妹都市交流促進補助金」というものを提案します。この補助金は、交流人口を増やすために姉妹都市の人々に支給するというものです。そして、地域活性化を図ります。まず、この補助金を受け取る対象となる人は、三重県内でショートステイ

を希望していて、三重県の文化や伝統を直接知りたいという外国人の方です。

次に、この補助金の使い道は、姉妹都市の人々に三重県に来ていただいて、実際にいろいろなところを見てもらうために、飛行機や船、電車などの公共交通機関の料金、そして、ショートステイに必要な代金など、滞在するのにかかる費用への補助として支給します。これを支給することで、今まで以上に三重県に來やすい環境を整え、より三重県の魅力を発見する機会を増やし、もう一度三重県に來たいと考える人を増やすのが狙いです。このような形で補助金を支給することで、来ていただいた方に三重県を知ってもらい、自国へ帰ってから三重県で経験したことや学んだことを伝えていただき、それが交流人口の増加につながり、消費が増え、県全体の活性化へとつながるのではないのでしょうか。

そこで、このような考えのもと、交流人口増加を進めるための補助金をつくることはできないのでしょうか。また、交流人口増加に向けての新たな政策を行うことはできないのでしょうか。

○戦略企画雇用経済常任委員長（石田成生）

ただいま三重高等学校からご質問いただきました交流人口増加を進めるための補助金を新しくつくることはできないか。それから、交流人口増加に向けての新たな政策を行うことはできないかということについてお答えを申し上げます。



三重県の人口は、平成19年をピークに減少傾向に転じています。人口の減少は、消費や生産活動を縮小させ、地域の活力

を失わせます。それらの影響を緩和し、地域に活力を取り戻すために交流人口を拡大することは有効な手段の一つであると考えています。

サミットの開催により国内外から注目を集めた三重県にとっては、今が人を呼び込む絶好の機会であり、私たちの委員会でも観光の振興を今年度の重点調査項目として、国内及び海外の誘客対策等について重点的に調査をすることとしております。

観光庁の資料によれば、外国人旅行者の消費額は国内宿泊旅行者の約3.5倍、国内日帰り旅行者の約11倍に相当するとされており、海外からの交流人口が増えることによる地域活性化の期待は大きいものと言えます。

三重県は現在、ブラジルのサンパウロ州、中国の河南省、スペインのバレンシア州、パラオ共和国と友好提携しています。平成25年には、友好提携40周年を記念して、議長や知事がサンパウロ州を訪問する等しており、関係性を深めているところです。

今回具体的に、姉妹都市の在住者を対象にした三重県での滞在費用を補助する制度の提案をいただきましたが、個人の旅行費用の一部を負担する補助金を新設することは、現状難しいところがあると思われます。この補助金は難しいんですが、一方で交流人口増加を進めるための補助金として、三重県では、海外から国際会議等を誘致する補助金を新しく設けております。

国際会議は会議室だけで完結するものではなくて、アフターコンベンションと呼ばれる会議後の催し等は、地域の文化や伝統にふれあい、三重県の魅力を知ってもらう絶好の機会となります。経済効果や地域の広報としての効果も大きいことから、交流人口増加を進めるために、国際会議等の誘致に力を入れていくことは有効であると考えております。

交流人口の増加に関する新たな取組として、体験・学習旅行にも可能性を感じており、地域と連携しての農家民泊等で

台湾や東南アジアから修学旅行や体験旅行を多数受け入れている先進地を委員会で視察することとしており、視察で得た成果をもとに委員会で議論を深めていきたいと考えております。

○三重高等学校

答弁ありがとうございました。

自分たちの考えているような補助金は難しいとしても、別の側面から交流人口増加に向けて県のほうで考えていらっしゃるということがわかったので、それを進めていただいて、少しでも早く地域がもっと活性化されるようになったらいいなと思っています。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○議長（稲葉雅紀）

以上で本日の会議は終了いたしました。

これをもって、みえ高校生県議会を閉会いたします。（拍手）

〔稲葉雅紀議員移動、
日沖正信三重県議会副議長
議長席に着く〕

○三重県議会副議長（日沖正信）

高校生議員の皆さん、大変お疲れさまでございました。

ここで、山口教育長より本日の感想をいただきます。

山口教育長、よろしくお願いします。

教育長の感想



○教育長（山口千代己）

高校生議員の皆さん、本当にお疲れさ

までした。

本日は、公・私立高校、特別支援学校16校52名の方々に参加いただきました。今回の参加は、先生に勧められたり、自ら希望した人もいるかと思いますが、他校の生徒さんの質問や、あるいは委員長の答弁を聞かれてどのような感想を持たれたのでしょうか。

今回の質問項目は大きく分けて6点ございました。「福祉・医療・介護分野での人材確保や環境整備」「生活・教育の充実」「積極的な観光振興」「人口減少や少子高齢化に伴う地域活性化、雇用などの地域課題への対応」「伊勢志摩サミット、高校生サミットなどグローバル化への対応」「学校通学路の安全確保」など、幅広い的確な質問、提案をいただきました。

皆さんも感じておられたかもしれませんが、同じ高校からの質問でも、答弁する委員長が替わることがありました。それは、一つの課題を複数にまたがる部局が所管しているということでございます。例えば、通学路についても、土木であったり、警察であったり、教育であったり、あるいは国であったり、県であったり、市町であったりする。そういうことをご理解いただけたかと思います。

感動したこと、あるいは私自身が反省したことが3点あります。

1点目は、高校生議員の皆さんが、日ごろの暮らし、授業などの学校生活の実体験、気づきや熱い思いをもとに課題意識を持って質問・提案されていたことです。

2点目は、質問・提案するための下準備をしっかり行い、最新の情報を持っていること、あるいは、生徒だけではなく、地域住民へのアンケート調査の実施などをされ、分かりやすい言葉で質問されていたことです。

3点目に、私自身が行政に携わる者として反省させられることは、分かりやすい言葉で皆さん方、あるいは県民に話しかけているだろうかということでございます。自己満足の事業や行政でなく、県

民、生徒の皆さんがいかに理解し、一緒になって行動してくれているかという、そういう点が欠けていたのではないかと今さら反省するところでございます。教育行政に携わる者として、私学の独自性を尊重した上で、改めて県内の児童・生徒の皆さんが生き生きと学び、卒業するときに三重県で学んでよかった、先生方が三重県で教員をしていてよかったと言ってもらえるように今後も力を尽くしてまいります。

なお、皆さんが今日行った資料収集・分析、あるいはプレゼンテーションは、今後の高校教育に求められる主体性・思考力・判断力・コミュニケーション能力の大切な要素となります。今後必ずや、民間でも行政でもどこへ行っても、社会人となったら必ず役に立つ方法でございます。このような学びをアクティブ・ラーニングといいます。ぜひこれからも続けてほしいと思います。

なお、四日市南高校のCAN-DOリストがないということ、知らされていないということについては、確認しましたが、三重県の高等学校は100%、CAN-DOリストがつけられています。ただ、つけられているだけで皆さんに周知されていない、理解がされていないということが、学校、あるいは教育行政の反省するところだと思います。不安がらせて申し訳ございませんでした。

お願いしたいことは、1点目は、みえ高校生県議会への参加を一過性にしないということです。今日の質問・答弁を県議会のホームページ、新聞やラジオなどを通じてフォローアップしたり、あるいは身近な学校生活、社会の新たな課題について主体的に考え、行動してほしいということです。委員長の答弁にもありました。志を立て、自ら学びとるという姿勢を待つことから一歩踏み出す勇氣。こんな言葉があります。「求めよ、さらば与えられん」。その姿勢を大事にしてほしいなと思います。

2点目は、川越高校や津東高校の質問の中にもありましたが、自治活動の一つ

である生徒会活動を活発にしたり、政治・行政に積極的に参加してほしいということです。若者の政治離れが言われる中、昨年6月の公職選挙法の改正により、皆さんも18歳から選挙権を持つことになりました。国政選挙と同様に、比較的身近な地方選挙、知事や市町村長、あるいは議員にも興味関心を持っていただきたいのです。よく地方自治は民主主義の母、あるいは先生とも言われております。選挙は、国民や県民などを幸せにするとともに、集められた税金をいかに使うかなど、予算編成を決める重要な権利行使です。三重県では関係機関と連携しながら、学校ともども主権者教育に尽力してまいりますので、皆さんの行動もしっかりお願いしたいと思います。

結びに当たり、本日引率された先生、あるいは傍聴され温かく見守っていただいた方々、高校生の諸君にこのような機会を与えてくださった広聴広報会議委員をはじめ三重県議会の皆さまに深く感謝を申し上げ、感想とさせていただきます。

本日は、高校生議員の皆さん、本当にお疲れさまでした。（拍手）

○三重県議会副議長（日沖正信）

それでは、最後に、私のほうから閉会のご挨拶を一言申し上げたいと思います。



高校生議員の皆さまにおかれましては、今日1日、本当にお疲れさまでございました。16校の生徒の皆さん、どの生徒の皆さんからの質問も一生懸命で、本当に素晴らしいものでございました。おそらく、この議場に入られるのも初めての経験でありましょうから、その中で、まして高校生議員として発言するということ

は大変緊張もされるのではないかなとお察ししておりましたけれども、しかしながら、大変堂々とした立派な高校生議員のお姿を見させていただきました。大変感動いたしましたし、また、これからの時代を担っていただく皆さんの若い力に本当に心強く思わせていただいた次第です。

本日は、皆さんから様々な分野にわたる質問や提案をいただきました。いずれも県政にとって大変重要な項目が取り上げられ、しかも、それぞれの内容がしっかりと整理されており、大変忙しい中を本当にしっかりと調査もしていただいたんだろうなと思っております。大変感心させていただきましたところでございます。学校での勉強や日ごろの生活などを通じて感じられたことを、高校生である皆さんの視点で考え、まとめられた内容は、委員長が答弁するのには大変難しいものもございましたけれども、いずれも貴重なご意見をいただいたものと思っております。

私たち議員もそれぞれが改めて気づかされること、そして、大変参考になったことがたくさんあったかと思えます。おそらく、本日皆さんから取り上げていただきました質問内容は、これからこの県議会で、この議場で取り上げられる議員も多かろうと思っております。

今日はそれぞれの学校の持ち時間が10分ということで、短い時間でもございました。ひょっとすると、質問をいただいてもちょっと消化し切れなかったなという部分もあったかもしれませんが、今後、皆さんからいただいた意見はしっかりと取り入れながら、議会での議論をさらに充実させていきたいと思っております。

本日は私ども議員にとりまして、本当に新鮮な刺激もいただき、良い機会をいただいたと皆さまに感謝しております。

また、高校生議員の皆さんには、今回の経験を通して、県政や県議会に対する関心をより一層高めていただければと思っております。そして、未来を担う皆さん

んが、それぞれが目指される分野でご活躍され、そのことを通じて、三重県がより住みやすく、より魅力ある県になっていければと、そんな期待もさせていただいたところでございます。また、あわせて、ぜひ、今日参加いただいた皆さんの中から、将来の三重県議会を担ってくれる人材が出てきてくださることも願っております。

最後になりましたけれども、本日の開催に当たりまして、まずは参加いただいた高校生議員の皆さん、そして、大変お忙しい中、ご尽力を賜りました各学校の先生方はじめ関係者の皆さん、そして、傍聴に来ていただきました皆さん、本日は本当にありがとうございました。これから若い皆さんが大きく活躍されますことを、そして、皆さんの未来がすばらしいものでありますことを祈っております。

これをもちまして、みえ高校生県議会を終了いたします。

ありがとうございました。（拍手）

〔午後 4 時50分閉会〕